

つて六週間軍隊に行かれたことがあったのです。そのとき先生から「自分が軍隊に行ったら家には家内と子供と女中と三人残るだけだから、夜留守番に来てくれ」と頼まれ、夜は先生のお宅に行っていたのです。そして翌朝早く家に帰ったのです。それはその当時私は三年甲組のボートの舵手をしており、毎朝早く学校の始まる前にボートの練習をしてから学校に行くようにしていたからです。朝早く家に帰ると母がちゃんと門を開けておいてくださって、弁当の用意もできていて、まことにありがたいことでした。

そのころの中学校は今の中学校三年間と、それから高等学校の二年までの五年制でした。そして各学年とも三組ずつ、甲組、乙組、丙組と三組ずつあり、各組の級長、副級長は学科の成績順で決められ私は甲組の副級長をしていて甲組のボートの舵手に選ばれていたのです。たまたま校内ボートレースがあり、甲組、乙組、丙組の三組で三年生のクラス対抗レースがあり、私の甲組が優勝、そのため私は次年度、学校代表ボート部の舵手に選ばれたのです。しかし私が四年生になってから病氣したため一度も他の学校との対抗レースには出ませんでした。

私が中学四年のとき（大正元年、今の高校一年）腎臓病にかかったのです。その前私は猩紅熱にかかり皮膚にぶつぶつができたのです。この病氣は伝染病であるため、普通ならば隔離され伝染病院に行かなければならなかったのですが、幸い軽かったのでしょうか、隔離されなくてよくしてもらったのです。医者には酒町にある宮崎というお医者さんでした。